

平成 31 年度
岩手県中学校新入生学習状況調査
結 果 報 告

令和元年 7 月

岩手県教育委員会

平成 31 年度岩手県中学校新入生学習状況調査結果報告

目 次

I 調査結果の概要	・・・・・・・・・・	2
1 調査についての基本的な考え方		
2 調査のねらい・内容等		
3 教科調査結果の概要		
4 生徒質問紙調査結果の概要		
II 各教科の調査結果の概要とその分析		
○ 国語 <授業改善の手引>	・・・・・・・・・・	4
○ 数学 <授業改善の手引>	・・・・・・・・・・	9
III 生徒質問紙調査の結果	・・・・・・・・・・	14

I 調査結果の概要

1 調査についての基本的な考え方

学習状況調査は、生徒の実態や指導の状況を検証し分析するツールの一つであり、県教育委員会のもとより、各市町村教育委員会、各小・中・義務教育学校においても調査結果を分析し、定着の状況や指導の状況を検証し、指導の充実や授業の改善に向けて活用していくためのものである。

2 調査のねらい・内容等

- 各中学校・義務教育学校後期課程において新入生一人一人の学習の定着状況を把握し、その結果を基に指導の充実を図ること。また、各小学校・義務教育学校前期課程では、出身小学校別の分析資料等から小学校・義務教育学校前期課程での学び全般の実態を捉え、今後の指導に生かすこと。さらに、各地域の小中連携会議等における指導改善に向けた協議等で活用する資料とし、小中の系統性を意識した指導の充実を図り、児童生徒の学力向上に資すること。
- 全県的な規模で小学校・義務教育学校前期課程修了段階における学習の定着状況を把握するとともに、明らかになった学習指導上の課題を教育施策に反映させることにより、本県児童生徒の学力向上に資すること。

【調査実施日】 平成31年4月18日(木)

【調査対象】 公立中学校・義務教育学校後期課程第1学年 国語・数学・生徒質問紙調査

【調査人数】 国語(9,860人) 数学(9,859人) 生徒質問紙調査(9,860人)

3 教科調査結果の概要

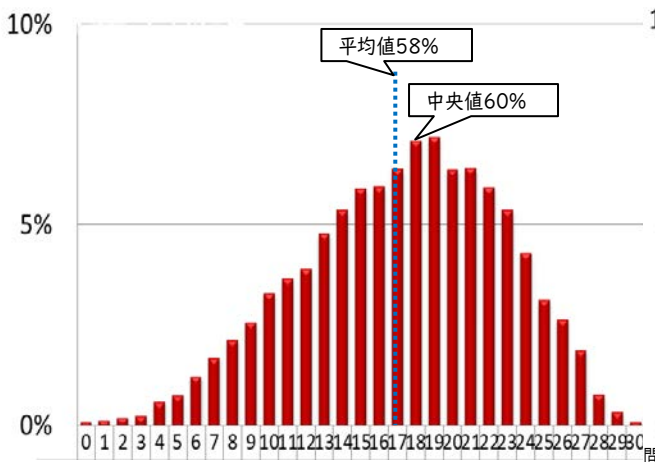
(1) 各教科の平均正答率及び中央値

国語	平均正答率	58%	中央値	60%
数学	平均正答率	60%	中央値	60%

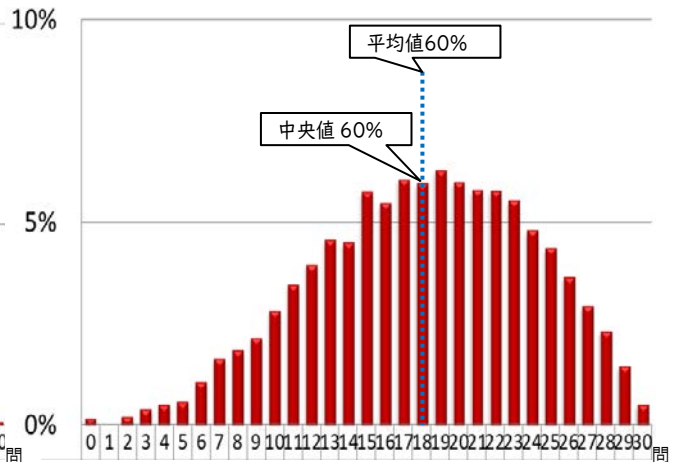
注1) 中央値：代表値の一つで、有限個のデータを小さい順に並べたとき中央に位置する値。本調査の場合、全対象者を正答率順に並べて、ちょうど真ん中に位置する値を指す。

(2) 各教科の正答数分布状況

◆国語 (H31 中1)



◆数学 (H31 中1)



(3) 分布状況から見える主な特徴等

教科調査結果の特徴として、以下の3点を捉えた。

ア 正答数5問以下の生徒の割合が国語2.0% (昨年は1.9%)、数学1.8% (昨年1.7%) と少なく、きめ細かい指導の成果が表れている。

イ それぞれの教科で、以下に示す問題について、指導改善の傾向が見られる。

教科	調査問題のねらい	正答率(%)	H30 正答率 (%)
国語	話し合いにおける司会の役割がわかる	70	57
	場面の描写と登場人物の様子を読む	37	30
数学	比較量と割合を基に基準量の求め方を理解している	51	38
	柱状グラフから資料の特徴や傾向に着目し、問題の結論について筋道を立てて説明することができる	56	51

また、以下に示す問題では、引き続き指導改善の課題が継続している。

教科	調査問題のねらい	正答率(%)	H30 正答率 (%)
国語	表やグラフから読み取ったことをまとめて書く	29	49
数学	示された平均の求め方を解釈し、別の場合に活用して数学的に表現することができる	48	51

ウ 毎年の岩手県学習定着度状況調査から、小・中ともに記述の問題における「無解答率」の高さが課題となり、県教育委員会では、主体的かつ諦めずにやり抜く態度の育成を各学校に周知し、取り組んできている。しかし、本調査の国語の結果より「根拠に基づいて自分の考えを書く」問題において、同一集団の経年比較でみると無解答率が21ポイント増加した。(16%→37%)同様に、他の記述問題の無解答率も増加しており、今後も、上記の課題を含めて、さらなる改善に取り組んでいく。

◆国語記述問題の無解答率

()内はH30年度

調査問題のねらい	正答率	無解答率 <H31 新入生中1>	無解答率 <H29 県学調小5>
段落構成を考えながら指定された長さの文章を書く	42 (52)	28 (21)	15
表やグラフから読み取ったことをまとめて書く	29 (49)	30 (23)	13
根拠に基づいて自分の考えを書く	39 (36)	37 (27)	16

4 生徒質問紙調査結果の概要

- (1) 生徒の「自己肯定感」についての項目(質問15)を見ると、同一集団の小5との比較では2ポイント上昇している。その要因として、その要因として、毎日の学校生活の中で、教師から「認められる」「ほめられる」経験(質問24)を重ねている状況が考えられる。
- (2) 「新たに注視する5項目」に関連した項目(質問7、26、27、37)を見ると、特に家庭学習の取組について、「どちらかといえばしていない」「していない」生徒が23%となっており、計画的に取り組ませることに加え、内容を生徒自身に自己決定させながら、その取組を教師が評価・改善していく指導を促していくことが必要であると考えられる。

【「自己肯定感」と「新たに注視する5項目」に関連した質問項目】(※ R1中1とH29小5は同一集団)

質問事項15: 自分にはよいところがあると思う。

質問事項24: 小学校のとき、先生はあなたのよいところをみとめてくれていたと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	H29	26	44	19	10
		70	29		
中学1年	H30	25	47	18	10
		72	28		
	R元	27	45	18	9
		72	27		

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
中学1年	H30	57	33	7	3
		90	10		
	R元	56	33	7	4
		89	11		

質問事項26: 小学校の授業で、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。【関連項目②】

質問事項27: 小学校のとき、授業で分からないことがあると、どうすることが多かったですか。【関連項目④】

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	H29	46	41	11	3
		87	14		
中学1年	H30	47	40	11	2
		87	13		
	R元	46	40	11	3
		86	14		

学年	年	先生にたずねる	友達にたずねる	家の人にたずねる	塾や家庭教師の先生にたずねる	自分で調べる	そのままにする
小学5年	H29	21	42	18	2	13	3
中学1年	H30	22	43	17	2	13	3
	R元	21	43	17	2	14	3

質問事項7: 家で、自分で計画を立てて勉強している。【関連項目⑤】

質問事項37: 小学校のとき、学校の授業以外で、1日にどのくらい勉強しましたか。【関連項目⑤】

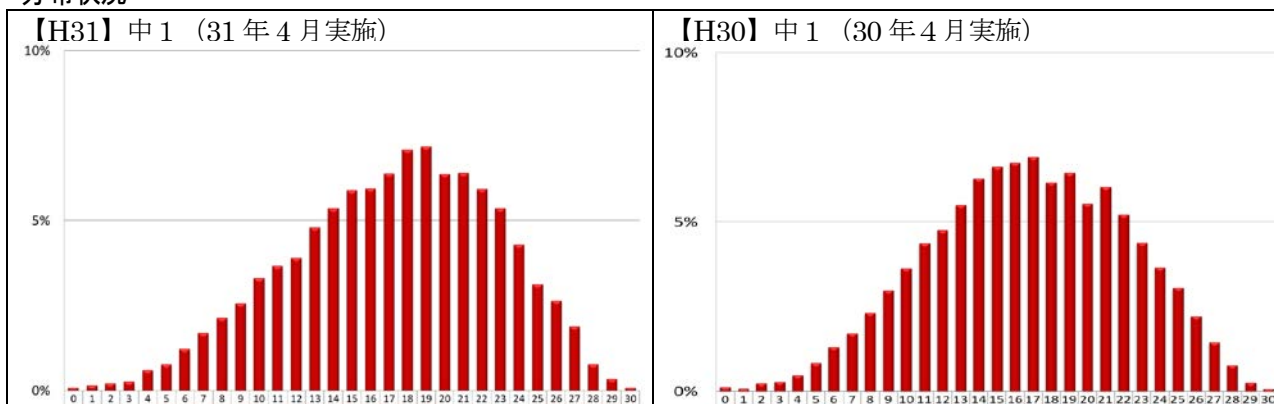
学年	年	している	どちらかといえば している	どちらかといえば していない	していない
小学5年	H29	33	41	18	8
		74	26		
中学1年	H30	33	41	18	8
		74	26		
	R元	35	42	16	7
		77	23		

学年	年	全くしない	30分より 少ない	30分以上、 1時間より 少ない	1時間以上、 2時間より 少ない	2時間以上、 3時間より 少ない	3時間以上
小学5年	H29	3	5	25	56	10	2
中学1年	H30	3	5	25	56	9	2
	R元	4	6	25	54	9	2

授業改善の手引 中学校第 1 学年国語

1 調査結果

(1) 分布状況



- 問題数は昨年度と同様 30 問、正答数の最頻値は 19 問、平均正答数は 17 問です。昨年度と比較すると、分布の山に大きな変動はありませんが、正答数 16 問以下の生徒数が 42%と、昨年度より 5 ポイント少なくなっています。
(正答数の最頻値：該当する生徒数の最も多い正答数)

(2) 領域等の正答率

領 域 等	正答率 () は H30 新入生学調、() は H29 県学調	正答率	
		()	()
話すこと・聞くこと (4 問)	65%	(72%)	(66%)
書くこと (3 問)	37%	(45%)	(46%)
読むこと (10 問)	43%	(44%)	(54%)
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (13 問)	72%	(62%)	(69%)
活用 (3 問)	33%	(49%)	(42%)

(3) 結果概要

- 領域ごとの正答率において、「読むこと」が 43%と昨年度より 1 ポイント下回ってはいますが、経年比較問題にもなっている小問ごとの正答率においては、「話し合いにおける司会の役割がわかる」問題が 70% (+13 ポイント)、「場面の描写と登場人物の様子を読む」問題が 37% (+7 ポイント)、「文章の構成をとらえて読む」問題が 47% (+2 ポイント) でそれぞれ上回り、改善傾向にあります。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が 72%と昨年度を 10 ポイント上回りました。特に、小問ごとの正答率において、「和語・漢語・外来語の区別について理解する」問題が 70% (+25 ポイント)、「文脈に沿って、漢字を適切に使う」問題が 63% (+6 ポイント) でそれぞれ上回り、改善傾向にあります。
- 領域ごとの正答率において、「話すこと・聞くこと」が 65% (-7 ポイント)、「書くこと」が 37% (-8 ポイント) と昨年度を下回る結果となりました。特に、条件に基づいて記述する問題 (大問 5) の正答率の低さが目立ちました。
- 活用問題 (3 問) が 40%と昨年度を 9 ポイント下回りました。また、「書くこと」領域の無解答率の割合が 32%と昨年度より 8 ポイント上回ったことから、表現様式や条件に応じた文章を書くことについて、引き続き指導の工夫が必要な状況にあります。

問題番号				調査問題のねらい	学習指導要領との関連	主な観点	備考	正答率	選択 No. (%)						
大問	中問	小問	通番号						1	2	3	4	5	6	0
									選択	選択	選択	選択	誤答	正答	無解答
1	(1)	1		話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く。	第5・6学年「話・聞」(1)エ	話・聞		37					61	37	2
	(2)	2		話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く。	第5・6学年「話・聞」(1)エ	話・聞		69	13	9	69	9			
	(3)	3		話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く。	第5・6学年「話・聞」(1)エ	話・聞		82	3	82	2	13			
	(4)	4		話し合いにおける司会の役割がわかる。	第5・6学年「話・聞」(1)オ	話・聞	経年	70	9	13	7	70			
2	(1)	①	5	第6学年配当漢字「郷里」を正しく読む。	第5・6学年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		95					4	95	1
	(1)	②	6	第6学年配当漢字「供える」を正しく読む。	第5・6学年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		98					2	98	
	(2)	①	7	第5学年配当漢字「豊富」を正しく書く。	第5・6学年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		52					43	52	5
	(2)	②	8	第5学年配当漢字「慣れる」を正しく書く。	第5・6学年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		73					16	73	11
	(3)		9	日常使われる敬語を正しく使う。	第5・6学年「伝国」(1)イ(ク)	伝国		89					10	89	1
	(4)		10	ローマ字で表記されたものを読む。	第3・4学年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		55	55	21	15	8	1		1
	(5)	ア	11	理解するために必要な語句について、辞書を利用して調べる。(漢字辞典、部首・画数)	第3・4学年「伝国」(1)イ(カ)	伝国		67					25	67	8
	(5)	イ	12	理解するために必要な語句について、辞書を利用して調べる。(漢字辞典、部首・画数)	第3・4学年「伝国」(1)イ(カ)	伝国		79					17	79	4
	(6)		13	和語・漢語・外来語の区別について理解する。	第5・6学年「伝国」(1)イ(エ)	伝国		70					20	70	10
	(7)		14	熟語の構成を意味との関わりから理解する。	第5・6学年「伝国」(1)イ(エ)	伝国		82	3	6	9	82			
(8)		15	文の構成について理解する。(修飾語)	第5・6学年「伝国」(1)イ(キ)	伝国	経年	74	12	7	74	6				
(9)		16	故事成語の意味や使い方を理解する。	第3・4学年「伝国」(1)ア(イ)	伝国		35	35	31	9	24			2	
(10)		17	文脈に沿って、漢字を適切に使う。	第5・6学年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		63					29	63	8	
3	(1)		18	場面の移り変わりを読む。	第3・4学年「読」(1)ウ	読		31					66	31	2
	(2)		19	登場人物の心情を読む。	第5・6学年「読」(1)エ	読	経年	59		59	19	3			2
	(3)		20	場面の描写と登場人物の様子を読む。	第5・6学年「読」(1)エ	読		37					52	37	11
	(4)		21	登場人物の心情を読む。	第5・6学年「読」(1)エ	読	経年・活用	38					53	38	9
	(5)		22	表現の仕方をとらえて読む。	第5・6学年「読」(1)エ	読		41	17	41	14	24	1		3
4	(1)		23	文章の内容を的確に押さえて読む。	第5・6学年「読」(1)ウ	読		51					43	51	5
	(2)		24	文章の内容を的確に押さえて読む。	第5・6学年「読」(1)ウ	読		51					35	51	14
	(3)		25	目的に応じて、中心となる語や文をとらえて読む。	第3・4学年「読」(1)イ	読		38					51	38	11
	(4)		26	文章の要旨をとらえて読む。	第5・6学年「読」(1)ウ	読	経年・活用	32					42	32	26
	(5)		27	文章の構成をとらえて読む。	第5・6学年「読」(1)ウ	読	経年	47	8	16	12	47	1		16
5	条件①		28	段落構成を考えながら指定された長さの文章を書く。	第3・4学年「書」(1)イ	書		42					30	42	28
	条件②		29	表やグラフから読み取ったことをまとめて書く。	第5・6学年「書」(1)エ	書	経年・活用	29					41	29	30
	条件③		30	根拠に基づいて自分の考えを書く。	第5・6学年「書」(1)ウ	書	経年	39					24	39	37
全体正答率								58							

※整数値で表示のため、合計が100にならない場合があります。

2 指導のポイント

- (1) 話し手の場面において、話し手がどのような意図で話しているかを考えながら、話の内容を聞き取らせましょう。

ア 問題の概要

1 (1) 話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く。 第5・6学年「話・聞」(1)エ 正答率 37%

イ 誤答分析

「意識する」、「本の返却日を意識する」という解答が多く見られました。廊下にポスターを貼ることと本に紙を挟むことに共通していることは、何度も目に触れるということです。「意識する」ことは書けていても、「何度も」意識するということが抜けていたり、何を意識するかが書かれていなかったりする解答が見られました。また、解答用紙の「ことが大事だから。」という記述内容に合わせ、「本を返す日を守る」のような「大事」だと思われる内容を書いている解答も見られました。

この問題では、二人が話したそれぞれの案について理解し、さらにその共通点を見つける力が求められています。そのため、内容の共通点を考えながら聞くことに課題があると考えられます。

ウ 指導上の留意点

- (ア) 話し手の意図をとらえながら聞くことについては、既に小学校第5学年及び第6学年（指導事項エ）で学習しています。中学校第1学年では、必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理するという学習につながります。
- (イ) 指導に当たっては、発言の内容やその理由について、生徒がメモを取りながら聞いたり、内容の共通点や相違点、考えたことなどを整理しながら聞いたりすることができるようにすることが大切です。話の目的や話し手の意図が何かを考え、比べながら聞けるような場を設定することが考えられます。
- (2) 人物像や内面にある深い心情を捉えられるよう、物語の内容と表現の特徴を関連付けながら分析的に捉え、その効果について自分の考えをもつ学習活動を充実させましょう。

ア 問題の概要

3 (4) 登場人物の心情を読む。 第5・6学年「読」(1)エ 正答率 38%

イ 誤答分析

気持ちが変化した要因と詠子の気持ちという二つの中身について、決められた字数で書いていることが正答の条件です。しかし、本文の最後の行から「不安は、詠子の中でむくむくと容赦なくふくらんだ」とそのまま抜き出している解答が大変多く見られました。また、「二人の名前の位置がはなれていたから」のように気持ちが変化した要因のみを書いている解答や、「ショックが大きく不安な気持ち」のように詠子の気持ちのみを書いている解答も見られました。

この問題は登場人物の心情と、心情が変化した要因について解答する力が求められています。そのため、登場人物の相互関係から人物像や心情をとらえたり、その根拠となる叙述に着目しながら読んだりすることに課題があると考えられます。

ウ 指導上の留意点

- (ア) 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えることについては、既に小学校第5学年及び第6学年（指導事項エ）で学習しています。このことは、中学校第1学年（指導事項ウ）の、時間的・空間的な場面の展開、人物の心情や行動、情景描写などに注意して読み、内容の理解に役立てるという学習につながります。
- (イ) 指導に当たっては、中心となる登場人物や周辺人物について、その相互関係をとらえるために、生徒が中心人物と周辺人物との関わりが分かる言葉や、行動に注意して読むことができるようにすることが大切です。登場人物の心情は、直接的に描写されている場合もありますが、行動や会話、情景描写などを通して、暗示的に表現される場合もあります。暗示されていることを叙述からとらえ、心情が変化したきっかけになった出来事や心情を表す表現の仕方などに注意しながら読むことができる場を設定することが考えられます。

- (3) 目的に応じて、内容をいきなり文や文章にまとめるのではなく、文章の内容、要旨を的確にとらえて、音声言語を取り入れた言語活動を位置づけましょう。

ア 問題の概要

4 (4) 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえて読む。

第5・6学年「読」(1)ウ 正答率32%

イ 誤答分析

無解答率は26%でした。誤答を分析すると、「ハンティングエリア」という語を用いないため時数制限にあてはまらなくなるもの、問題にある「に続く形で」を読み切れずに、以降にある内容を入れ込む分、本来盛り込むべき大事な内容が欠けてしまうものが多く見られました。キーワードの近辺にのみ注目し、言葉をつなごうとしたと考えられます。

ここでは、文章全体を俯瞰的に見て、その中で内容を的確に押さえる力が求められます。書き手の伝えたい内容を的確に押さえて要旨をとらえる力に課題があると考えられます。

ウ 指導上の留意点

(ア) 小学校では、第3学年及び第4学年の指導事項イを受けて、第5学年及び第6学年では、目的に応じて文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、自分の考えを明確にしながら読んだりすることを学習しています。このことは、中学校第1学年「読むこと」の指導事項イ「文章の中心的部分と不可的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること」につながります。

(イ) 指導にあたっては、生徒に対して、読み取った内容を書き表すまでの段階を丁寧に踏ませることが必要です。読み取った内容をいきなり文や文章にまとめるのではなく、声に出して友達と確認したり、図示しながら説明したりするなど、音声言語を取り入れた言語活動を位置づけることが考えられます。

- (4) 得た情報の中から自分の考えの根拠となる事柄を捉え、根拠を明確にして書く学習を大切にしましょう。

ア 問題の概要

5 条件② 表やグラフから読み取ったことをまとめて書く。第5・6学年「書」(1)エ 正答率29%

条件③ 根拠に基づいて自分の考えを書く。第5・6学年「書」(1)ウ 正答率39%

イ 誤答分析

誤答の多くは、条件②「資料A・Bから読み取ったこと、それをもとに分かったこと」に反して、「資料A・Bを比較できないもの」「事実と考察を混同してしまうもの」、条件③「どうしていききたいか自分の考えを」という条件に反して、「読み取ったこと分析・解釈・予想を書いてしまうもの」「考えが根拠とかみあっていないもの」でした。

この問題では、複数の資料から読み取ったことを適切な言葉や数値を用いて記述する力や、それらに関連付けて根拠とし、自分の考えを明確にする力が求められています。「読み取ったこと」と「分かったこと」、そして「どうしていききたいか」が区別できないという傾向があり、指定された条件どおりに文章を書く経験が不足していることが考えられます。

ウ 指導上の留意点

(ア) 小学校では、第5学年及び第6学年の「書くこと」の指導事項ウ・エにかかわって、事実と感想、意見などを区別して書く学習や図表やグラフなどを用いて自分の考えを伝えるように書く学習を行っています。このことは、中学校第1学年の「書くこと」の指導事項ウ「伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちの根拠を明確にして書くこと」につながります。

(イ) 指導に当たっては、実際に表やグラフを見て、具体的な数値をあげて比較したり関連付けたり、原因を考察したりする言語活動を設定することが効果的です。書き上げたものを交流し、できるだけ多くの生徒作文に触れさせることも大切ですが、書く途中の段階で、表やグラフの様々な「読み方」に触れさせることと同時に、その妥当性について吟味することも大切にしましょう。

また、全てを一気に書かせずに、第一段階として「事実と考察を筋道正しく書ける」、それから第二段階として「それについてどう思うかという『自分の考え』を書く」という流れも大切にしましょう。

【複数の表やグラフを関連付けて読み、それを根拠として自分の考えを書く言語活動を段階的に取り入れた授業の展開例】

(教材：H30 新入生学調問題文)

導入	1 『「データを読む』とは、複数の数値を関連付けたり比較したりすることによって、考察を打ち出すこと』と確認する
展開	2 データを見て、気付いたことを確かめる (個→班) 3 班で整理した内容を学級で共有し、本当にそう言えるのか、全ての妥当性を吟味する 4 学級で共有した内容から一つを選び、それを根拠として、自分がどうしていききたいかを考える。口頭で確認する (班) 5 条件どおりに作文する 6 書き上げた作文を班で回し読みし、批評しあう
終末	7 授業を振り返り、自己評価をまとめる

2 資料A資料Bからそれぞれ読み取ったこと、それをもとに比べてわかったことを具体的な数値を上げて指摘する。

<ul style="list-style-type: none"> ・宿題以外の勉強時間は、小学生 34,0分、中学生 63,5分 ・ゲームをする時間は、小学生 42,3分、中学生 35,5分 ・携帯電話やスマートフォンを使う時間は、小学生 9,1分、中学生 40,6分 ・外での遊び・スポーツは、小学生 40,7分、中学生 17,1分 ・学校の宿題をする時間は、小学生 40,9分、中学生 43,1分 	<ul style="list-style-type: none"> ・約 30分も差がある。 ・約 7分中学生の方が少ない。 ・4倍以上に増えている。 ・約 23分もの開きがある。 ・2,2分しか変わらない。
---	--



グラフから分かる当たり前のことを書けばいいんだね。

求められているのは「自分だけが気づく独自性」ではなく、「誰もが納得できること」だよ。

4 中学生になった自分がこれからどのように時間を使いたいかについて、自分の考えを書くこと。

部活動で遅く帰るようになるから、外は暗くて遊べないに違いない。

携帯・スマホは、小学生のうちには親と共有しているけど、中学生になると自分専用のものをもつ人が増えるからじゃないかな。

確かに「自分の考え」だけど、求められているのは理由じゃなくて、「自分がどうしていききたいか」だよ。

そうか、「資料の結果こうだけど、反対に自分はこうしたい」とか、「資料の結果はこうだから、自分も近づくようにがんばる」というような中味になればいいんだね。

7 授業を振り返り、自己評価をまとめる。

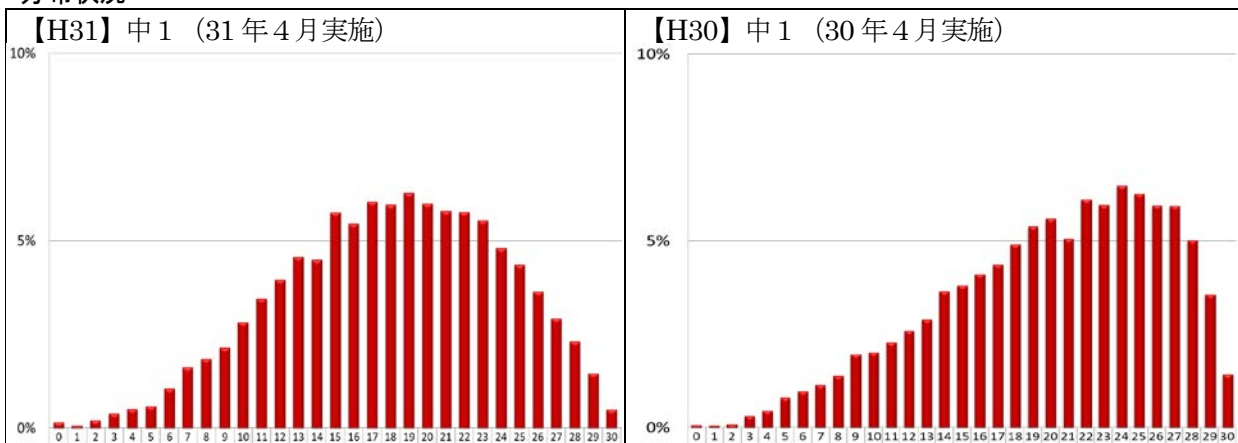
【生徒の振り返り記述より】

- ・「こうしていききたい」という自分の考えに、もっともしっくりくる根拠を書けばいいことがわかった。根拠をもとに自分の考えを言うことは様々な場面でいかせると思ったので、難しく考えずにあたっていきたい。
- ・一つのデータからではなく、複数のデータから、組み合わせたり比較したりする必要があるとわかった。
- ・データから読み取れることと、「どうしていききたいか」という自分の考えだけで書くのは物足りない感じがして、うっかり理由の考察まで入れそうになってしまったので、何を求められているのかよく確かめたい。

授業改善の手引 中学校第 1 学年数学

1 調査結果

(1) 分布状況



- 新入生学習状況調査の問題は、昨年度同様、小学校の授業で経験してきたものが出題されています。結果は、正答数の最頻値は 19 問、平均正答数は 18 問で、平均正答数未満の生徒は 45% います。

(正答数の最頻値：該当する生徒数の最も多い正答数)

(2) 領域等の正答率

領域等	正答率 () は H30 新入生学調 < > は H29 県学調小 5	観点等	正答率 () は H30 新入生学調 < > は H29 県学調小 5
数と計算 (7 問)	69% (82%) <66%>	数学的な考え方 (7 問)	52% (52%) <61%>
量と測定 (5 問)	51% (59%) <75%>	数量や図形についての技能 (11 問)	69% (74%) <62%>
図形 (7 問)	59% (68%) <58%>	数量、図形などについての知識・理解 (12 問)	56% (71%) <65%>
数量関係 (11 問)	59% (61%) <54%>	活用 (8 問)	51% (47%) <54%>

(3) 結果概要

- 領域ごとの正答率を比較すると、「数と計算」が、他の領域に比べ高くなっています。特に、「2つの数量の関係の表し方」については、昨年度と同様に 88% と高い正答率になっています。
- 観点ごとの正答率を比較すると、「数量や図形についての技能」の数値が高く、H29 県学調の同一集団による比較からも伸びが見られます。
- 「活用」については、昨年度よりも 1 問多い 8 問に対して +4 ポイントの伸びが見られます。
- 4本の棒の間の長さをもとに、8本の棒の間の長さを求めるような問題において、それぞれの数が何を表しているかを正しく捉えることに課題(正答率 13%)が見られます。
- 四角形の面積の求め方を、別の図形の面積の求め方に活用することに課題(正答率 25%)が見られます。
- 角柱の高さについて理解に課題(正答率 44%)が見られます。

(4) 経年比較問題等の状況

問題番号	正答率	比較問題	比較	内容(調査問題のねらい)
3	48%	H30 5	-3	示された平均の求め方を解釈し、別の場合に活用して数学的に表現することができる。
7	44%	H30 10	-10	角柱の高さについて理解している。
13 (1)	64%	H30 16 (1)	-1	伴って変わる二つの量の数量の関係について理解している。
13 (2)	84%	H30 16 (2)	0	比例の関係をとらえ、 y を x の式に表すことができる。
15 (2)	60%	H30 18 (1)	-8	柱状グラフから資料の分布の様子を読み取ることができる。

問題番号				調査問題のねらい	学習指導要領との関連	主な観点	備考	正答率	選択 No. (%)						
大問	中問	小問	通番号						1	2	3	4	5	6	0
									選択	選択	選択	選択	誤答	正答	無解答
1	(1)		1	除法の意味に基づき、二つの数量の関係を数を用いた式で表すことができる。	3年 数と計算 (4)工	技		88					12	88	1
	(2)		2	小数の除法の意味について理解している。	5年 数と計算 (3)ア	知		58	1	30	58	9	2		
	(3)		3	除法の意味に基づき、二つの数量の関係を記号を用いた式で表すことができる。	4年 数量関係 (2)ウ	技		63					36	63	1
2			4	2つの四角形の面積の求め方を、別の図形の面積の求め方に活用できることを理解している。	5年 量と測定 (1)ア	知	活用	25	45	11	15	25	3		1
3			5	示された平均の求め方を解釈し、別の場合に活用して数学的に表現することができる。	5年 量と測定 (3)ア	考	経年・活用	48					40	48	12
4			6	示された複合図形の面積の求め方を参考に、複合図形の面積の求め方を式に表すことができる。	4年 量と測定 (1)ア	考	活用	90					9	90	1
5			7	単位量当たりの大きさの考えを用いた比べ方について理解している。	5年 量と測定 (4)ア	知		50	50	20	15	13	1		1
6			8	四角形の内角の和の求め方について、説明することができる。	5年 図形 (1)ウ	考		40					54	40	6
7			9	角柱の高さについて理解している。	5年 図形 (2)ア	知	経年	44	44	2	7	46	1		
8			10	立方体の面と面のつながりや位置関係を理解している。	5年 図形 (2)ア	知		70	70	11	13	5	1		1
9			11	合同な三角形をかくために必要な条件を理解している。	5年 図形 (1)イ	知		43	21	21	43	13	1		1
10	(1)		12	対称な図形について理解している。	6年 図形 (1)イ	知		79	4	79	10	5			1
	(2)		13	点対称な図形を構成することができる。	6年 図形 (1)イ	技		75					23	75	2
11			14	比の利用の問題を解くことができる。	6年 数量関係 (1)	技		58					35	58	6
12	(1)		15	比較量の求め方を式に表すことができる。	5年 数量関係 (3)	技		53	33	53	5	9			1
	(2)		16	比較量と割合を基に基準量の求め方を理解している。	5年 数量関係 (3)	知		51	27	51	14	7	1		1
13	(1)		17	伴って変わる二つの量の数量の関係について理解している。	6年 数量関係 (2)ア	知	経年	64	9	9	16	64			1
	(2)		18	比例の関係をとらえ、yをxの式に表すことができる。	6年 数量関係 (2)ア	知	経年	84	84	5	5	4			1
14			19	伴って変わる二つの数量の変化をとらえ、その変化を表すグラフを判断することができる。	4年 数量関係 (1)ア	考	活用	59	11	18	59	8			3
15	(1)		20	柱状グラフから資料の合計を求めることができる。	6年 数量関係 (4)イ	技		94					5	94	1
	(2)		21	柱状グラフから資料の分布の様子を読み取ることができる。	6年 数量関係 (4)イ	知	経年	60	27	6	60	5	1		1
	(3)		22	柱状グラフから資料の特徴や傾向に着目し、問題の結論について筋道を立てて説明することができる。	6年 数量関係 (4)イ	考	活用	56					38	56	6
16	(1)		23	三角形の面積を求めることができる。	5年 量と測定 (1)	技		44					51	44	4
	(2)		24	他の図形の面積を求めた結果と比較して、円の面積の大きさについて判断することができる。	5年 図形 (1)工	考	活用	63	13	4	12	63	4		3
17			25	差による比べ方と倍による比べ方について理解している。	1年 数と計算 (1)工 4年 (3)イ	知	活用	51	11	18	51	15	1		4
18			26	4本の棒の間の長さをもとに、8本の棒の間の長さを求めることができる。	3年 数量関係 (2)ア	考	活用	13					82	13	5
19	(1)		27	小数の減法の計算ができる。(23.2-4.8)	4年 数と計算 (5)イ	技		69					24	69	7
	(2)		28	整数の四則混合計算ができる。(7+8÷2)	4年 数と計算 (2)	技		74					20	74	5
	(3)		29	分数の減法計算ができる。(5/6-2/3)	5年 数と計算 (4)ア	技		82					12	82	6
	(4)		30	分数と小数の混合計算ができる。(3.6÷0.05÷9)	6年 数と計算 (1)イ	技		61					28	61	10
全体正答率								60							

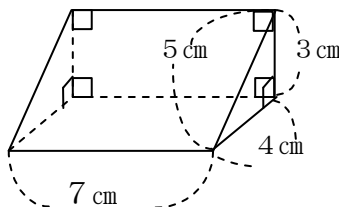
2 指導のポイント

- (1) 図形領域だけではなく、他領域や学年をまたいだ単元の中で、「立体」を題材として扱いながら、底面積や高さに着目する機会を設定していきましょう！



ア 問題の概要（角柱の「高さ」の意味を理解しているかを見る問題）

7 右のような三角柱があります。



この三角柱について、正しく述べているものを次の①～④から1つ選んで、その番号を書きなさい。

- ① 三角柱の高さは7 cmである。
 ② 三角柱の高さは5 cmである。
 ③ 三角柱の高さは4 cmである。
 ④ 三角柱の高さは3 cmである。

【正答率】 43.7%

【正答】 ① 三角柱の高さは7 cmである。

イ 誤答分析

選択肢④の反応率が46%でした。これらの中には、角柱の底面は合同な2つの多角形であり、その面に垂直な線分が高さであるという柱体における底面と高さの定義に沿って図形を捉えられることができず、見た目の高さとして捉えた生徒がいると考えられます。

(参考)

年度・学年	問題番号	問題の概要	正答率 (%)
H30 中学校 新入生学調	7	角柱の高さについて理解している。	54%

ウ 指導上の留意点

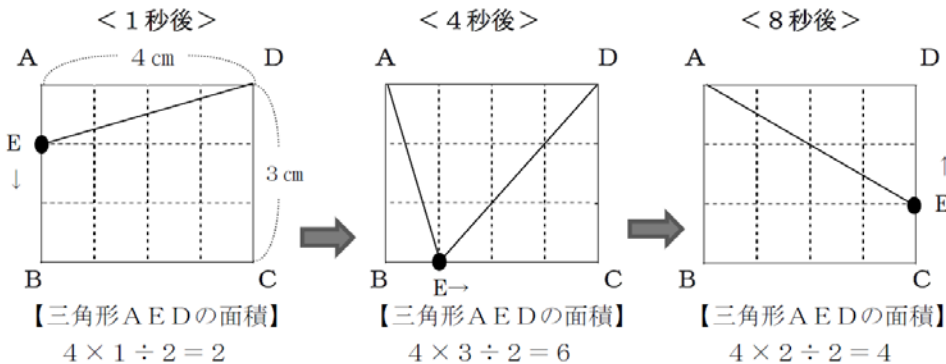
- (ア) 生徒が「底面」や「高さ」を正しく捉えられているかを確認した上で、柱体の体積の求め方について調べる数学的活動を取り入れることが大切です。また、文字と式の学習の際に、「角柱と円柱の体積」で学習したことを踏まえて、体積を求める式を、高さを x として文字式の形にすることで、より「柱体の高さ」を意識させることができます。
- (イ) 中学校第1学年「空間図形」の学習指導にあたっては、柱体と錐体を比較し、求積などを学習します。立体に対する見方・考え方を豊かにしていくために、学年や単元を越えて、様々な場面で立体を活用しながら、生徒たちの目に触れる場面を設定していくことが考えられます。
- (ウ) それを踏まえると、第5学年の「角柱と円柱」の学習では、底面を上下に配置する柱体の見取り図を多く扱ってかいたりする活動が多くなっていきます。そのため、底面の扱いについては、単に位置的に上下にあるという捉えではなく、高さとなる線分と垂直な関係にあり、2つの底面は合同であることを、模型や見取り図を対応させながら理解させることが重要となります。コースターなどを重ねて柱体を作る活動を通して、角柱や円柱は、底面が垂直に移動してできた形であるというような見方は、中学校の「空間図形」の学習に直結します。さらに、柱体の高さがより意識されるのは、第6学年の「角柱と円柱の体積」の学習です。柱体の体積を求める式の中の数値が何を表しているのかを、模型や図形と対応させたり、模型を操作させたりしながら柱体の底面積と高さを理解させることも大切です。

- (2) 伴って変わる2つの量を「表に整理」してみて、式やグラフと関連付けて捉える活動を設定してみましょう!

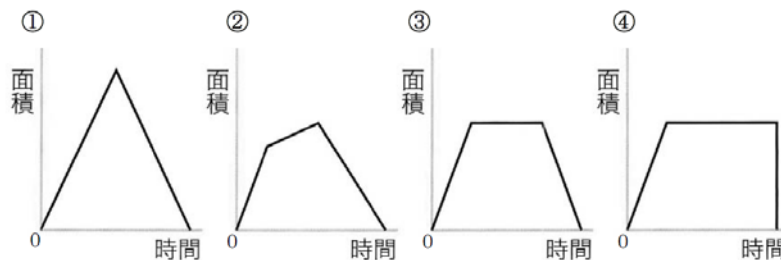


ア 問題の概要 (伴って変わる二つの数量の変化をグラフから読み取れるかを見る問題)

14 長方形ABCDの周上を、点EはA→B→C→Dと一定の速さで移動します。



「移動時間」と「三角形AEDの面積」の変わり方を表すグラフは、下のうちどれになりますか。下の①～④から1つ選んで、その番号を書きなさい。



19

反応率	
①	11%
②	18%
◎③	59%
④	8%
無回答	3%

イ 誤答分析

選択肢①、②の反応率は合わせて29%でした。これらの生徒の中には、点Eが辺BC上を移動するとき、「三角形AEDの面積が一定になる」という捉えができていない生徒がいると考えられます。また、場合分けが必要な2つの数量の関係について、グラフに表したり、グラフから読み取ったりする経験が少ないことも考えられます。

ウ 指導上の留意点

(ア) 本問題と同様の問題を中学校第2学年「1次関数の利用」でも取り扱います。

(イ) 学習指導にあたっては、グラフの傾きを読み取り、点Eの位置や三角形AEDの面積を問うなど、図とグラフが相互に関連付けられるような場面を取り入れていくことが考えられます。併せて、中学生であれば、図1のように表に整理することで、表・式・グラフと関連付けて関係を捉えることも考えられます。

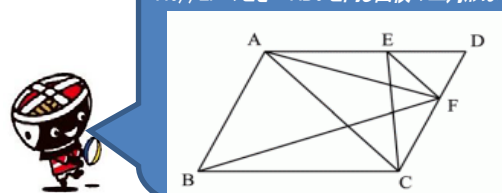
(ウ) それを踏まえると、小学校第5学年「三角形の面積」では、底辺と高さが等しい三角形の等積変形について学習しますが、中学校で扱う図2のような図形に発展させて、面積の等しい三角形を底辺と高さを根拠にしながら見つける活動が大切です。

図1



図2

AC//EFのとき△ABCと同じ面積の三角形は?

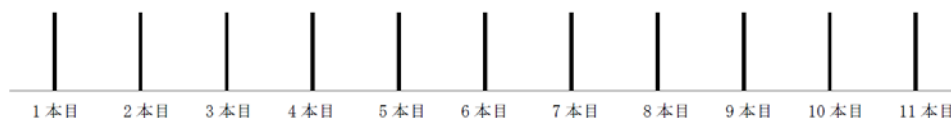


- (3) 『「1本目から3本目」までだと何mですか?』と子どもたちに問いかけてみましょう!
「1つ分」、「いくつ分」に着目させながら、かけ算と比例を学び直す場面に!



ア 問題の概要(「1つ分」、「いくつ分」の数量の間の関係を読み取ることができるかをみる問題)

18 下の図のように、道にそって、同じ間かくで棒が立てられています。



かずやさんが、1本目から4本目までの長さをはかると、12mありました。

1本目から8本目までの長さをはかると、何mありますか。ただし、棒の太さは考えないこととします。

26

【正答率13%】

イ 誤答分析

誤って「24m」と解答した反応率が60%でした。これらの中には、次の①、②のように問題文に与えられている数値のみに着目して考えた生徒がいると考えられます。

- ① 「4本目」「8本目」に着目し、棒の順番が「2倍」になったため、
全体の距離も2倍になるから $12 \times 2 = 24$ (⇒比例で捉えている)
- ② 4本目までの長さが12mだから、間隔1つあたりの長さは $12 \div 4 = 3$ (m) となり、
8本目までの全体の距離は $8 \times 3 = 24$ (⇒かけ算で捉えている)

「間隔の数」と「木の本数」を混同し、「間隔1つ分の長さ」と「間隔の数」を誤ったり、「全体の長さ」は「木の本数」に比例すると誤って捉えたりしている生徒がいると考えられます。

ウ 指導上の留意点

- (ア) 中学校第1学年の比例の学習では、伴って変わる2つの量(独立変数と従属変数)に着目しながら、2つの量の関係に倍々関係が成り立つことを式で表現する活動を通して、2つの変数と決まった数(1つ分)が何を示しているのかを明らかにしていくことが大切です。
- (イ) 学習指導に当たっては、「木の本数」が倍になっているから「間隔の長さ」も倍になるという比例の考え方や、「間隔1つ分の長さ」(1つ分)と「全部の間隔の数」(いくつ分)をかけ算の考え方を、図を基にして読み取ったり、自分で求めた後に振り返って確かめたりする活動を取り入れることが考えられます。さらに、「1つ分」と「いくつ分」を明らかにするために、1本目から3本目までの長さを問いかけることで、「木の本数」と「間隔の数」が異なることに気づかせることが考えられます。
- (ウ) それを踏まえると、小学校3学年では日常の事象で乗法が用いられる場面について統一的・発展的に考え、一つ分の大きさやいくつ分などの数量やその関係を読み取ることができることや、小学校第5学年で学習する比例の性質について「□が2倍、3倍、…になると、それにとまって○も2倍、3倍、…になると、○は□に比例する(第6学年では□がx、○がyに言い換えられる)」と、小学校第6学年で学習する「yがxに比例するとき、y=決まった数×xになる」のように、式の形から比例を判断するなどの経験が繰り返されることで、見方・考え方を豊かにしていくことにつながると考えられます。

学習が進んでいくと、生徒は問題解決をする際に、形式的に「□が2倍、3倍、…になると、それにとまって○も2倍、3倍、…になると、○は□に比例する」を用いて思考することが考えられます。そして、与えられた数量を吟味することなく、問題に与えられた数値のみで処理してしまいがちです。

このような問題を「植木算」といい、第3学年の教科書(下P.110)で扱っています。このように、「考える力をのばそう」や「算数のおはなし」などを効果的に扱い、深い学びの実現を図ることが考えられます。

○ 生徒質問紙調査項目結果一覧

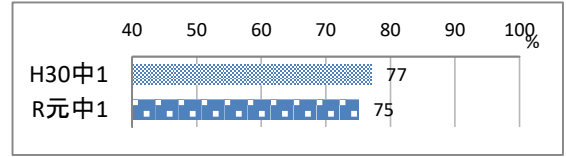
※ R元年度中学1年には、義務教育学校後期課程1年を含みます。

質問事項1: 学校での勉強が好きですか。

☆は指標関連項目

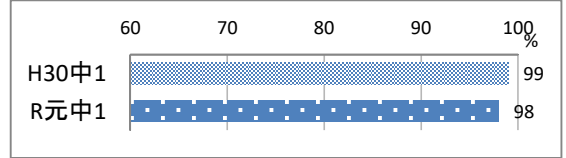
学年	年	好きだ	どちらかといえば好きだ	どちらかといえば好きではない	好きではない
中学1年	H30	30	47	18	4
		77		22	
	R元	29	46	19	6
		75		25	

小学5年データ: 10月県学調
中学1年データ: 4月新入生学調



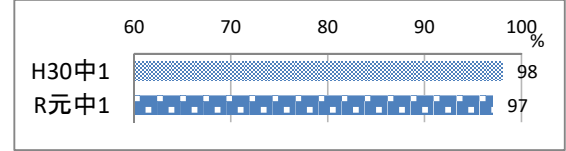
質問事項2: 勉強は大切だと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
中学1年	H30	84	15	1	0
		99		1	
	R元	82	16	1	1
		98		2	



質問事項3: 学校の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

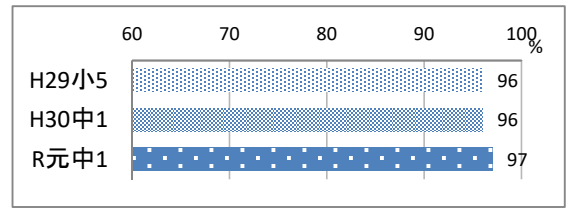
学年	年	役立つと思う	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	役に立つと思わない
中学1年	H30	76	22	2	0
		98		2	
	R元	74	23	3	1
		97		2	



質問事項4: 学校に行く前に朝食をとりますか。

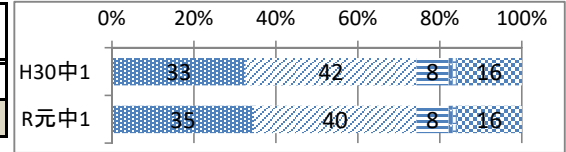
学年	年	必ずとる	とることが多い	とらないことが多い	ほとんどとらない
小学5年	H29	87	9	2	1
		96		3	
中学1年	H30	87	9	2	1
		96		3	
	R元	88	9	2	1
		97		3	

H29の小学5年とR元の中学1年は同一集団です。



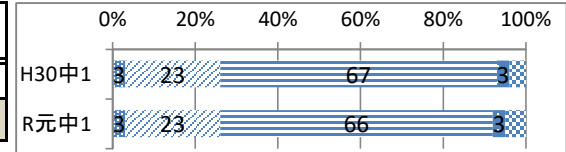
質問事項5: 学校のある日の前日は、いつも、何時ごろに寝ますか。

学年	年	午後10時前に寝る	午後10時～午後11時前に寝る	午後11時～午前0時前に寝る	午前0時～午前1時前に寝る	午前1時以降に寝る	日によって違う
中学1年	H30	33	42	8	1	1	16
	R元	35	40	8	1	1	16



質問事項6: 学校のある日は、いつも、何時ごろに起きますか。

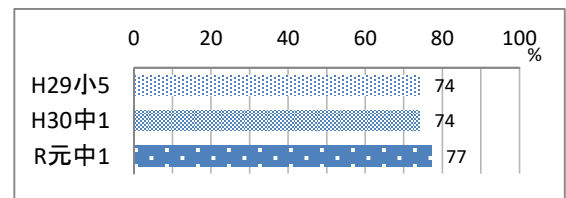
学年	年	午前5時前に起きる	午前5時～午前6時に起きる	午前6時～午前7時に起きる	午前7時～午前8時に起きる	午前8時以降に起きる	日によって違う
中学1年	H30	3	23	67	3	0	4
	R元	3	23	66	3	0	5



質問事項7: 家で、自分で計画を立てて勉強していますか。

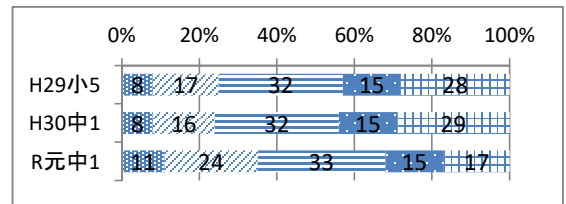
学年	年	している	どちらかといえばしている	どちらかといえばしていない	していない
小学5年	H29	33	41	18	8
		74		26	
中学1年	H30	33	41	18	8
		74		26	
	R元	35	42	16	7
		77		23	

☆



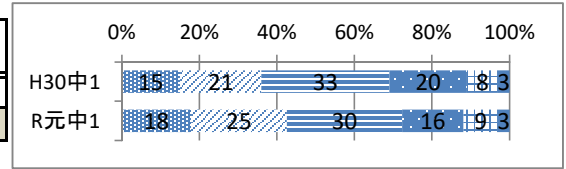
質問事項8: 学校の授業以外で1日にどのくらい読書を読みますか。

学年	年	1時間以上	30分以上1時間より少ない	10分以上30分より少ない	10分より少ない	ほとんどしない
小学5年	H29	8	17	32	15	28
中学1年	H30	8	16	32	15	29
		11	24	33	15	17
	R元					



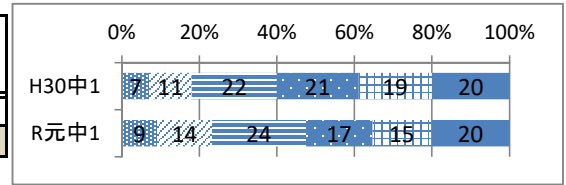
質問事項9: 1日にどのくらいテレビやビデオ、DVDを見ますか。

学年	年	3時間以上	2時間以上 3時間より少ない	1時間以上 2時間より少ない	30分以上 1時間より少ない	30分より少ない	全く見ない
中学1年	H30	15	21	33	20	8	3
	R元	18	25	30	16	9	3



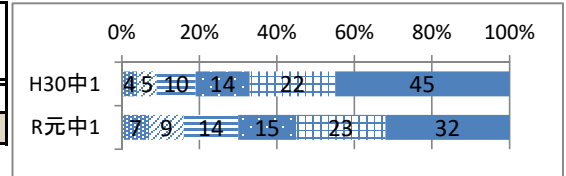
質問事項10: 1日にどのくらいテレビゲームをしますか。

学年	年	3時間以上	2時間以上 3時間より少ない	1時間以上 2時間より少ない	30分以上 1時間より少ない	30分より少ない	全くしない
中学1年	H30	7	11	22	21	19	20
	R元	9	14	24	17	15	20



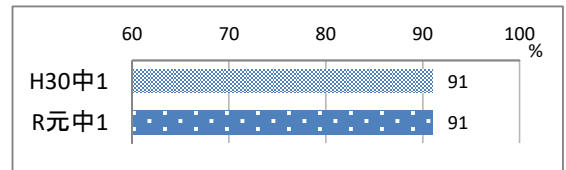
質問事項11: 1日にどのくらい携帯電話やスマートフォンで電話やメール、インターネットをしますか。

学年	年	3時間以上	2時間以上 3時間より少ない	1時間以上 2時間より少ない	30分以上 1時間より少ない	30分より少ない	携帯電話・スマートフォンを持っていない
中学1年	H30	4	5	10	14	22	45
	R元	7	9	14	15	23	32



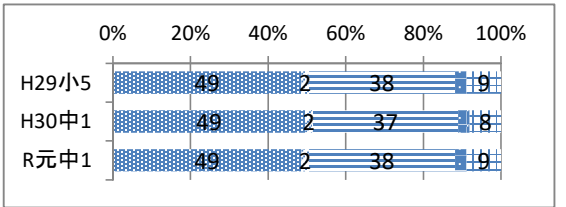
質問事項12: 学校に行くのは楽しいと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
中学1年	H30	59	32	6	2
	R元	56	35	7	3



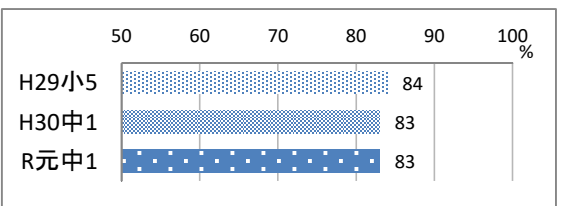
質問事項13: 自分が悩んでいることがあった時、誰に相談することが多いですか。

学年	年	家族	学校の先生	友達	その他	相談する人はいない
小学5年	H29	49	2	38	3	9
中学1年	H30	49	2	37	3	8
	R元	49	2	38	3	9



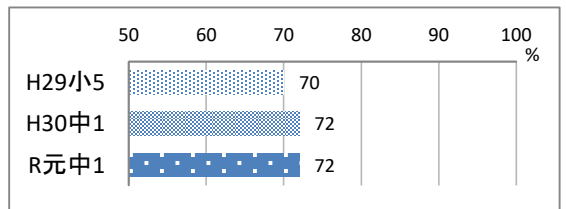
質問事項14: あなたは、将来の夢や就きたい仕事など具体的な目標をもっていますか。

学年	年	もっている	どちらかといえば もっている	どちらかといえば もっていない	もっていない
小学5年	H29	57	27	9	6
	R元	84	15	15	6
中学1年	H30	55	28	10	7
	R元	55	28	10	7



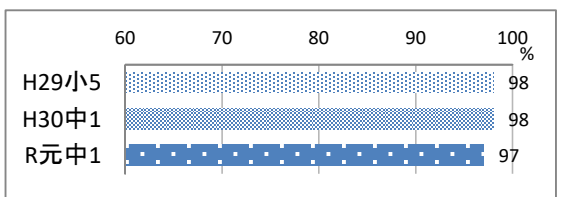
質問事項15: 自分にはよいところがあると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	H29	26	44	19	10
	R元	70	29	29	10
中学1年	H30	25	47	18	10
	R元	27	45	18	9



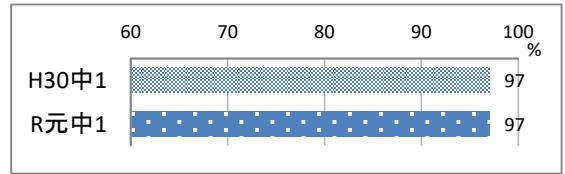
質問事項16: 人が困っているときは、進んで助けようと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	H29	65	33	2	1
	R元	98	3	3	1
中学1年	H30	68	30	2	0
	R元	66	31	2	0



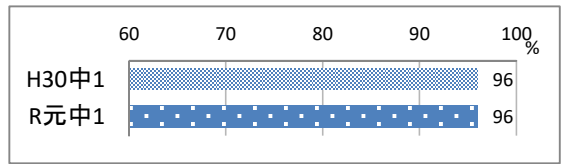
質問事項17: 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
中学1年	H30	81	16	2	1
		97	3		
	R元	81	16	2	0
		97	2		2



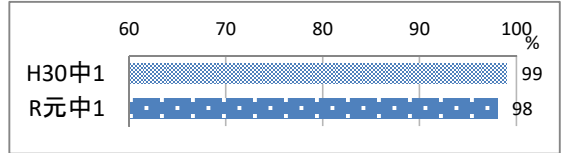
質問事項18: ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか。

学年	年	ある	どちらかといえば ある	どちらかといえば ない	ない
中学1年	H30	80	16	2	1
		96	3		
	R元	80	16	2	2
		96	4		



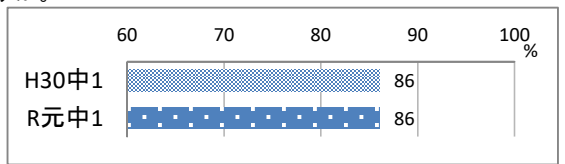
質問事項19: 学校のきまりを守っていますか。

学年	年	守っている	どちらかといえば 守っている	どちらかといえば 守っていない	守っていない
中学1年	H30	74	25	1	0
		99			
	R元	72	26	1	0
		98			



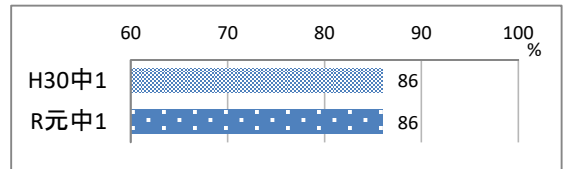
質問事項20: 新聞を読んだり、テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか。

学年	年	そうしている	どちらかといえば そうしている	どちらかといえば そうしていない	そうしていない
中学1年	H30	48	38	9	4
		86	13		
	R元	48	38	9	4
		86	13		



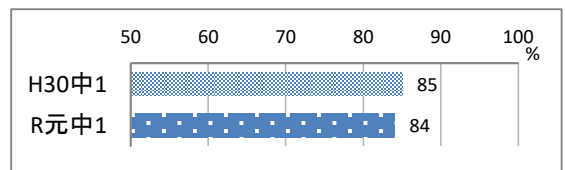
質問事項21: 家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか。

学年	年	話をする	どちらかといえば 話をする	どちらかといえば 話さない	話さない
中学1年	H30	55	31	9	5
		86	14		
	R元	56	30	9	5
		86	14		



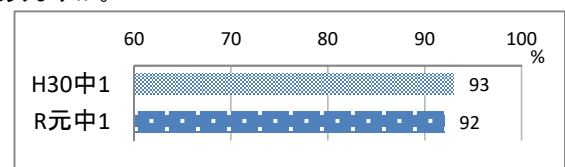
質問事項22: 小学校のとき、学校に行くのは楽しかったと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
中学1年	H30	57	28	9	5
		85	14		
	R元	54	30	10	6
		84	16		



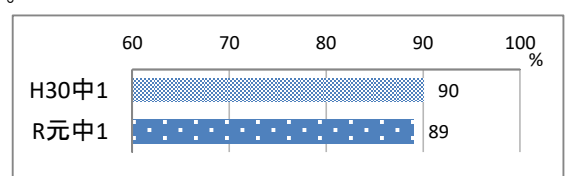
質問事項23: 小学校のとき、学級みんなで協力して何かをやりとげ、うれしかったことがありますか。

学年	年	ある	どちらかとい えばある	どちらかとい えばない	ない
中学1年	H30	70	23	5	2
		93	7		
	R元	67	25	5	3
		92	8		



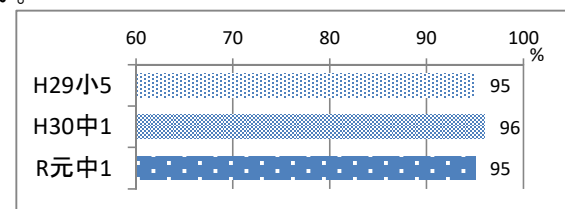
質問事項24: 小学校のとき、先生はあなたのよいところを認めてくれていたと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わない	そう思わない
中学1年	H30	57	33	7	3
		90	10		
	R元	56	33	7	4
		89	11		



質問事項25: 小学校の授業で、授業の目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか。

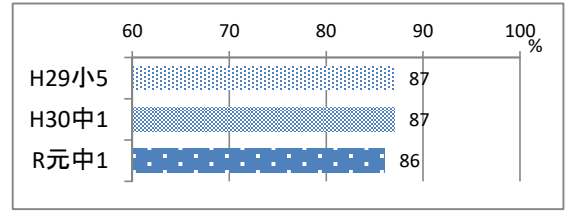
学年	年	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わない	そう思わない
小学5年	H29	67	28	4	1
		95	5		
中学1年	H30	68	28	4	1
		96	5		
	R元	67	28	4	1
		95	5		



質問事項26: 小学校の授業で、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。

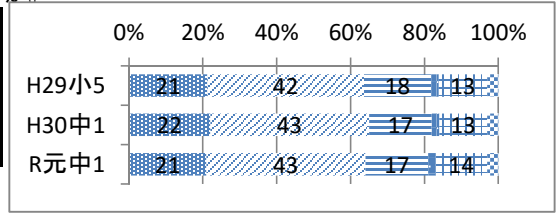
学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	H29	46	41	11	3
		87		14	
中学1年	H30	47	40	11	2
		87		13	
	R元	46	40	11	3
		86		14	

☆



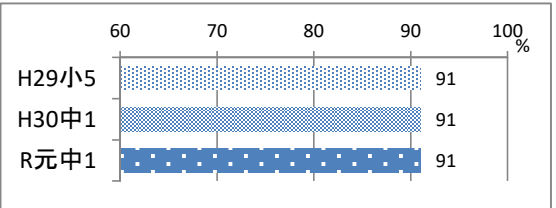
質問事項27: 小学校のとき、授業で分からないことがあると、どうすることが多かったですか。

学年	年	先生にたずねる	友達にたずねる	家の人に たずねる	塾や家庭教師 の先生に たずねる	自分で調べる	そのままにする
小学5年	H29	21	42	18	2	13	3
中学1年	H30	22	43	17	2	13	3
	R元	21	43	17	2	14	3



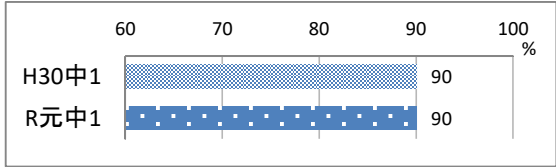
質問事項28: 小学校のときの「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいましたか。

学年	年	取り組んでいた	どちらかといえば 取り組んでいた	どちらかといえば 取り組んでいない	取り組んでいない
小学5年	H29	50	41	7	1
		91		8	
中学1年	H30	51	40	7	1
		91		8	
	R元	50	41	7	2
		91		9	



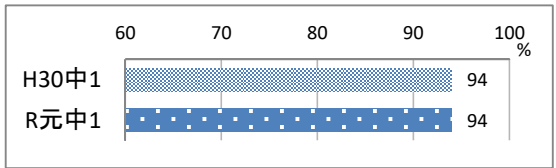
質問事項29: 小学校のときの授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていたと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
中学1年	H30	49	41	8	2
		90		10	
	R元	49	41	8	2
		90		10	



質問事項30: 小学校のときの授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか。

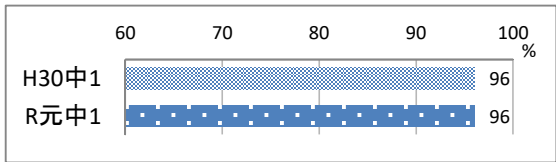
学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
中学1年	H30	66	28	5	1
		94		6	
	R元	66	28	5	2
		94		7	



質問事項31: 小学校のときの授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
中学1年	H30	69	27	4	1
		96		5	
	R元	70	26	3	1
		96		4	

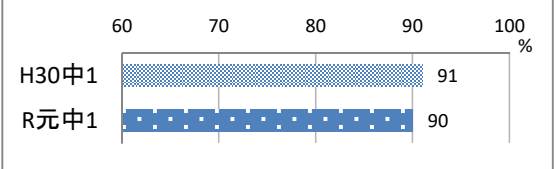
☆



質問事項32: 小学校のときの授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか。

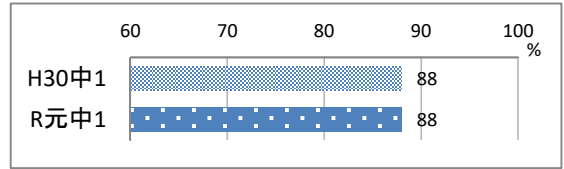
学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
中学1年	H30	44	47	8	2
		91		10	
	R元	44	46	8	2
		90		10	

☆



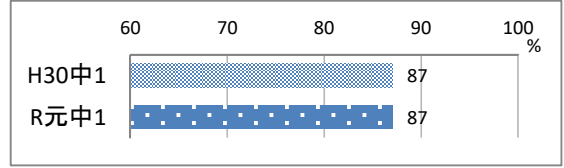
質問事項33: 小学校の国語の授業で、自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように
気を付けて書いていたと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
中学1年	H30	43	45	9	2
	R元	45	43	10	2
		88		12	



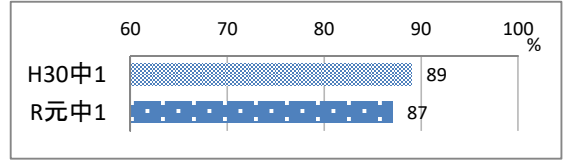
質問事項34: 小学校の国語の授業で、文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を
理解しながら読んでいたと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
中学1年	H30	41	46	10	2
	R元	41	46	11	3
		87		14	



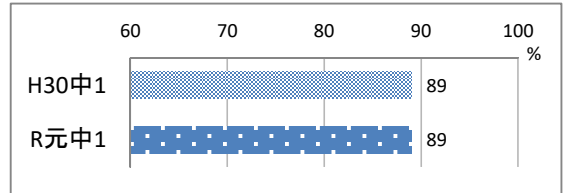
質問事項35: 小学校の算数の問題の解き方が分からないとき、あきらめずにいろいろな
方法を考えていたと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
中学1年	H30	51	38	9	2
	R元	50	37	10	3
		87		13	



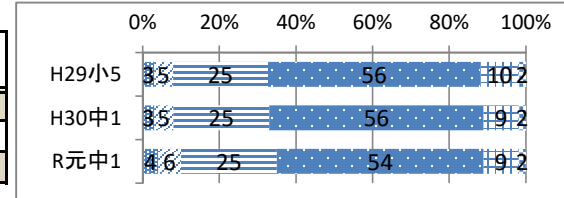
質問事項36: 小学校の算数の授業で、公式やまわりを習うとき、そのわけを理解するように
していたと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
中学1年	H30	54	35	8	3
	R元	55	34	8	3
		89		11	



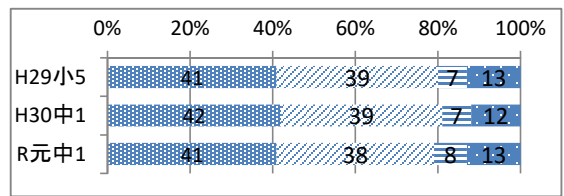
質問事項37: 小学校のとき、学校の授業以外で、1日にどのくらい勉強していましたか。

学年	年	全くしない	30分より 少ない	30分以上、 1時間より 少ない	1時間以上、 2時間より 少ない	2時間以上、 3時間より 少ない	3時間以上
小学5年	H29	3	5	25	56	10	2
中学1年	H30	3	5	25	56	9	2
	R元	4	6	25	54	9	2



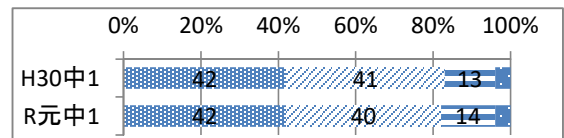
質問事項38: 小学校のとき、家庭で勉強する内容は、次のどれに近いことが多かったですか。

学年	年	宿題だけする	宿題のほかに 復習をする	宿題のほかに 予習をする	宿題のほかに 予習と復習をする
小学5年	H29	41	39	7	13
中学1年	H30	42	39	7	12
	R元	41	38	8	13



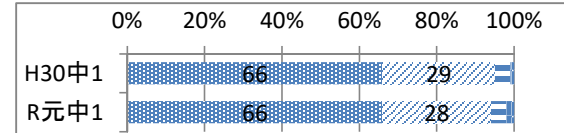
質問事項39: 中学校の国語の授業を楽しみにしていますか。

学年	年	楽しみにしている	どちらかといえば 楽しみにしている	どちらかといえば 楽しみではない	楽しみではない
中学1年	H30	42	41	13	4
	R元	42	40	14	4



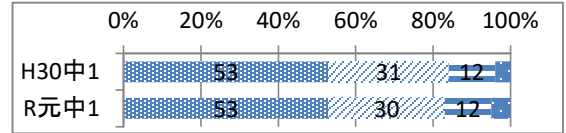
質問事項40: 小学校の国語で学習したことを、中学校の学習でもいかしていけると
思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
中学1年	H30	66	29	4	1
	R元	66	28	4	2



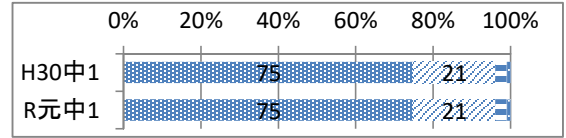
質問事項41: 中学校の数学の授業を楽しみにしていますか。

学年	年	楽しみにしている	どちらかといえば 楽しみにしている	どちらかといえば 楽しみではない	楽しみではない
中学1年	H30	53	31	12	4
	R元	53	30	12	5



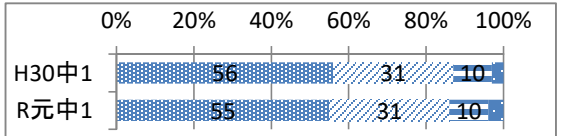
質問事項42: 小学校の算数で学習したことを、中学校の学習でもいかしていけると
思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
中学1年	H30	75	21	3	1
	R元	75	21	3	1



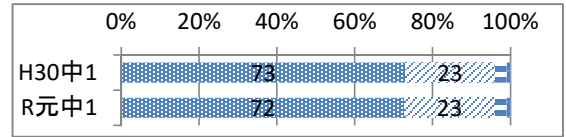
質問事項43: 中学校の社会の授業を楽しみにしていますか。

学年	年	楽しみにしている	どちらかといえば 楽しみにしている	どちらかといえば 楽しみではない	楽しみではない
中学1年	H30	56	31	10	3
	R元	55	31	10	4



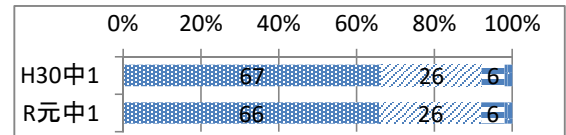
質問事項44: 小学校の社会で学習したことを、中学校の学習でもいかしていけると
思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
中学1年	H30	73	23	3	1
	R元	72	23	3	1



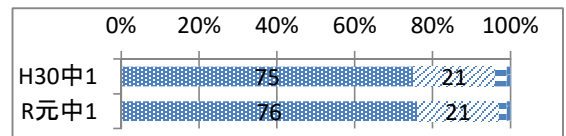
質問事項45: 中学校の理科の授業を楽しみにしていますか。

学年	年	楽しみにしている	どちらかといえば 楽しみにしている	どちらかといえば 楽しみではない	楽しみではない
中学1年	H30	67	26	6	2
	R元	66	26	6	2



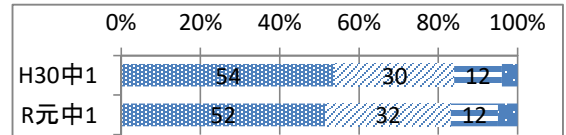
質問事項46: 小学校の理科で学習したことを、中学校の学習でもいかしていけると
思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
中学1年	H30	75	21	3	1
	R元	76	21	2	1



質問事項47: 中学校の英語の授業を楽しみにしていますか。

学年	年	楽しみにしている	どちらかといえば 楽しみにしている	どちらかといえば 楽しみではない	楽しみではない
中学1年	H30	54	30	12	4
	R元	52	32	12	5



質問事項48: 小学校の外国語活動で学習したことを、中学校の学習でも
いかしていけると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
中学1年	H30	69	24	5	2
	R元	71	23	4	2

